



岐阜県感染症発生動向調査週報

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

平成 30 年 3 月 8 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

2018 年第 9 週
(2/26~3/4)
2 月報合併号

○ インフルエンザは、県全体で定点当たり 14.44 人となり、前週（17.34 人）より減少しています。すべての保健所管内で減少傾向にありますが、引き続き、岐阜市・岐阜・西濃・関・可茂・東濃保健所管内では警報レベルの流行となっています。→トピックス

■ 定点把握対象疾患の発生動向（インフルエンザ定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

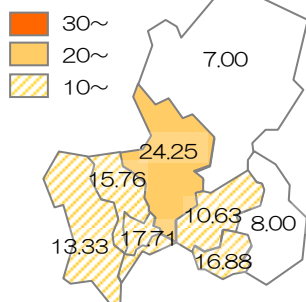
● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

レベル	疾患名	基準	該当保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	インフルエンザ	定点当たり 30 人以上 (10 人を下回るまで継続)	岐阜市 (17.71)、岐阜 (15.76)、西濃 (13.33)、 関 (24.25)、可茂 (10.63)、東濃 (16.88)
注意報レベル	なし	—	—

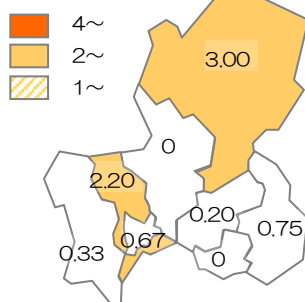
※定点当たり報告数が一定の基準を超えた場合、保健所単位で「警報・注意報レベル」を発信しています。
警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを、注意報レベルは流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

● 注意したい感染症の保健所別流行状況（地図中の数値は定点当たり報告数）

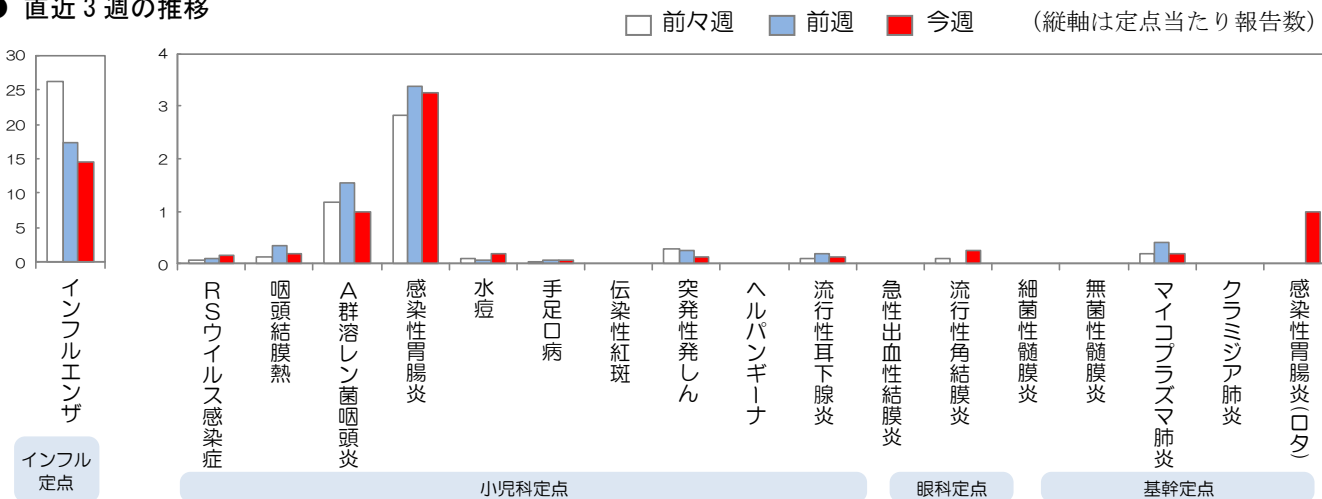
<インフルエンザ>



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>



● 直近 3 週の推移



■ 全数把握対象疾患の発生動向

● 今週届出分

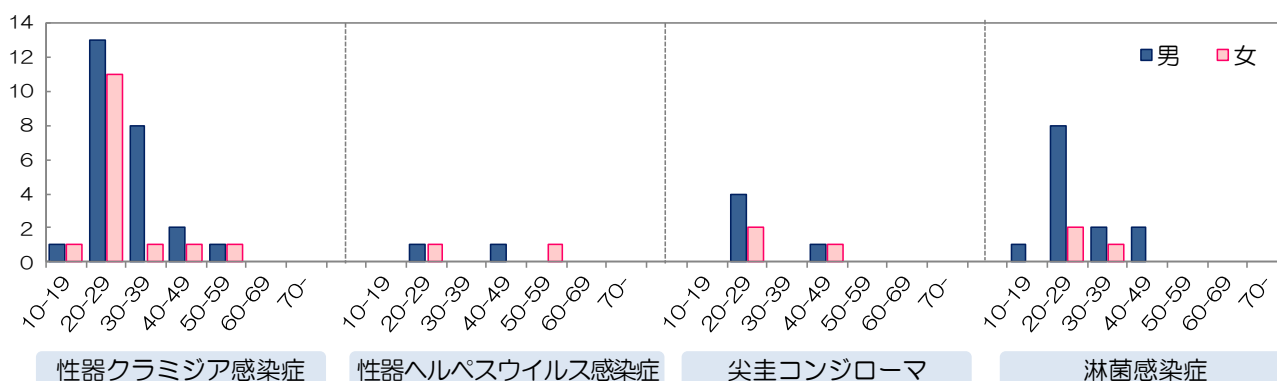
- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 2 例
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例
- 4 類感染症：E 型肝炎 1 例
- 5 類感染症：侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 例、
侵襲性肺炎球菌感染症 2 例、梅毒 1 例

■ 月報告定点把握対象疾患の発生動向 <2月>

● 性感染症報告数（STD定点：15か所）

疾患名	2月	男			女		
		2月	1月	12月	2月	1月	12月
性器クラミジア感染症	23	12	13	19	11	4	16
性器ヘルペスウイルス感染症	3	1	1	2	2	-	-
尖圭コンジローマ	3	2	3	9	1	2	-
淋菌感染症	8	7	6	9	1	2	1

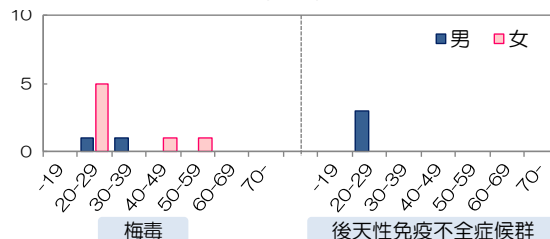
<性・年齢階級別報告数（2018年1~2月）>



（参考）全数把握対象の性感染症 報告数

疾患名	2月	1月	累計	男	女
梅毒	6	3	9	2	7
後天性免疫不全症候群	3	-	3	3	-

性・年齢階級別報告数（1~2月）



● 薬剤耐性菌感染症報告数（基幹定点：5か所）

疾患名	2月	1月	12月	11月	10月	9月
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	9	18	19	8	18
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	5	3	9	2	3
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	-	-	-	1

■ 病原体検出情報

● 医療機関から提出された検体の病原体検出状況（2月採取分、3月4日現在結果判明分）

臨床診断名	病原体名（遺伝子検出を含む）	検出数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス AH1pdm09	2
	インフルエンザウイルス AH3	10
	インフルエンザウイルス B型	20
水痘	水痘・帯状疱疹ウイルス	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4型	3
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T型別不能	1
腸チフス	<i>Salmonella</i> Typhi	1
パラチフス	<i>Salmonella</i> Paratyphi A	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1型	2

※病原体検出情報の詳細についてはHPをご覧ください（毎週更新）。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/byougentai.html>

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターのHPをご覧ください。
 感染症発生動向調査週報（IDWR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>
 病原微生物検出情報（IASR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>

トピックス

インフルエンザ

県内の患者数は減少傾向にあります

県内のインフルエンザ定点医療機関からのインフルエンザ患者の報告数は、3週をピークに減少傾向にあり、第9週は定点当たり14.44人となっています。

保健所別にみると、恵那・飛騨保健所管内では定点当たり10人を下回りましたが、関保健所管内では定点当たり20人を超える流行が続いています。

今シーズン、県内では119人の患者検体からインフルエンザウイルスを検出しており、型・亜型別の内訳は、AH3（A香港型）が36件（30%）、AH1pdm09が9件（8%）、B型が74件（62%）となっています。全国と比べると、県内ではB型の割合が高く、また、A型ではAH3の割合が高くなっています。

岐阜県リアルタイム感染症サーベイランスによる迅速診断キットによるA・B型別の患者報告数をみても、今シーズンは、流行入りしてから現在までB型がA型より多い状態が続いています。

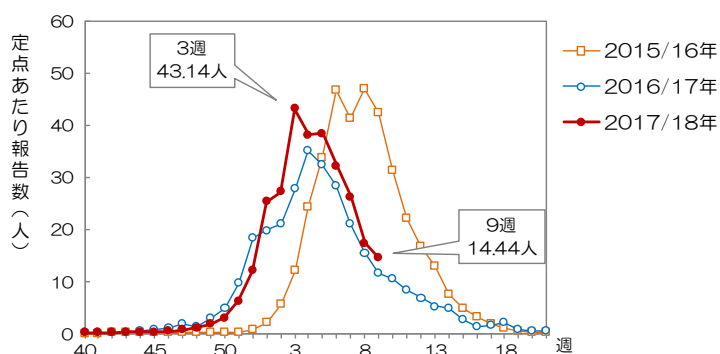
流行は終息に向かいつつあると考えられますが、今後もしばらくは動向に注意し、引き続き、学校や職場、家庭内で予防に努める必要があります。

手洗いや咳エチケットの徹底を

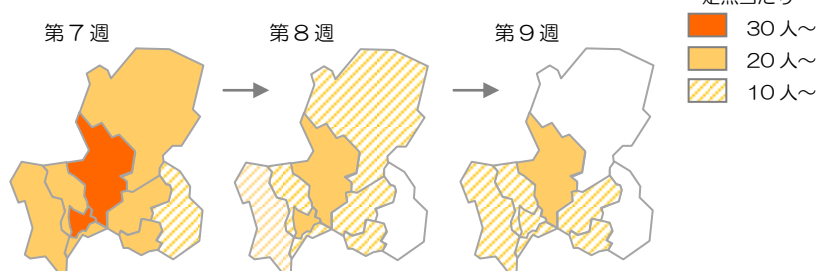
基本的な予防対策としては、外出後の手洗いを励行すること、流行期には人ごみを避けること、やむを得ず人ごみに出る場合にはマスクを着用することなどが挙げられます。

また、感染拡大を防止するためには、咳エチケットによる飛沫感染対策が重要となります。

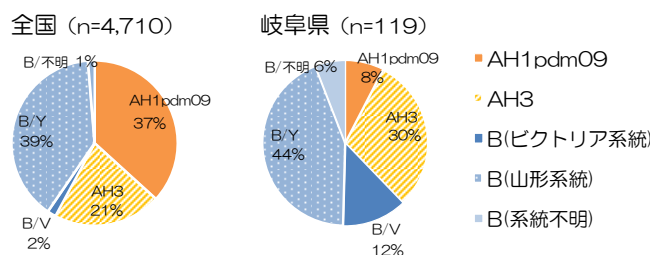
インフルエンザ患者報告数（岐阜県：87定点）



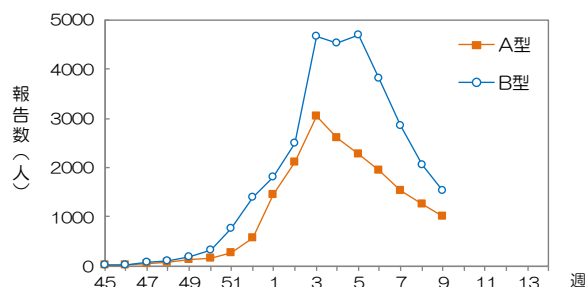
保健所別 定点当たり患者報告数推移



今シーズンのインフルエンザウイルス検出状況（3月7日時点公開分）



岐阜県リアルタイム感染症サーベイランス迅速診断キットによるA・B型別患者報告数推移



○ インフルエンザとは

インフルエンザウイルスによる気道感染症で、典型的には、1~3日間ほどの潜伏期間の後に、38℃以上の高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然現われ、咳、鼻汁などの上気道炎症状がこれに続き、約1週間の経過で軽快します。高齢者や、呼吸器、循環器、腎臓の慢性疾患患者や糖尿病患者などでは、呼吸器に二次的な細菌感染症を起こしやすく、また、小児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。

○ 感染症法における取扱い

インフルエンザは、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約5,000か所（岐阜県87か所）のインフルエンザ定点から毎週報告がなされています。